

ウルグアイ2020年地方選挙

Nationwide Local Elections of Uruguay under Covid-19 Pandemic in 2020

内 田 みどり

UCHIDA Midori

(和歌山大学)

2020年10月19日受理

Abstract

In Uruguay, the election process, which comes every five years, begins with the party primary elections in June and ends with the nationwide local elections on the second Saturday of May the following year. But in 2020, due to the Covid-19 pandemic, the election dates had to be postponed to September 27th. It had an unexpected effect. I would like to describe the election process with a focus on three things: 1. Confrontation between the Broad Front and the ruling party coalition (*coalición multicolor*) in the election of the governor of the capital, Montevideo. 2. Can the Broad Front maintain the governorship of the three inland prefectures which obtained in the previous election? 3. Can Cabildo Abierto, a right-wing party led by ex-commander in chief, who appeared like a comet in the last election, maintain and expand the party power?

はじめに

5年に一度の選挙の季節。今回のウルグアイのそれは、大統領候補を決める2019年6月の党内予備選に始まり、翌年5月第2土曜の地方選挙で終わる——はずだった。しかし新型コロナウイルスのパンデミックにより、地方選挙は9月27日に延期を余儀なくされた。そのことは予期せぬ効果をもたらした。

2019年のウルグアイ大統領・国政選挙では、3期15年の間政権を維持した拡大戦線に、前回敗れた国民党の御曹司が再び戦いを挑み、決戦投票は激戦の末、国民党が雪辱を遂げた。

国民党は国会内で単独で多数派を形成できないため、5党で連立与党を作った。ここでキャスティングボートを握ったのが、結党間もない「カビルド・アビエルト(開かれた市参事会)」である。拡大戦線に引き立てられながら、拡大戦線の軍人年金改革を批判する等の言動がもとで解任された元軍総司令官が率いるこの政党が、11%の票を得て上院で3議席、下院で11議席を獲得したのである。

国政では連立しても、地方選挙ではライバルである。かつては一党優位を誇っていたコロラド党は地方で盛り返せるか。首都は30年来、拡大戦線が統治している。2015年はコロラド党と国民党が協同して統一候補を立てたが敗北した。本稿では県知事選挙に焦点を絞り、①首都モンテビデオ県をめぐる拡大戦線と連立与党の攻防、②2015年に内陸の3県で知事を出すことができた拡大戦線はこれを維持できるか、③カビルド・アビ

エルトは党勢を拡大できるか、の3点を中心に、選挙戦を現地報道から年代記風にスケッチし、考察を試みる。

その前に、ウルグアイの選挙制度はきわめてユニークなので、それを確認しておきたい。県知事の被選挙権は上院議員(憲法第98条)と同じで30歳以上、加えてその県生まれか少なくとも3年はその県に居住している必要がある(憲法第267条)。知事は1回だけ連続再選が可能だが、立候補するには選挙の3か月前までに辞任する必要がある。残りの任期は「補欠(suplente)」が務める。ウルグアイでは国会や地方議会の議員、地方自治体の首長に立候補するときは憲法で定められた人数の補欠を提示する必要があり、県知事候補の場合は4人である(憲法第268条)。補欠は議員・首長が一時的に職務を遂行できない時や辞職した時にその職務にあたる。また、県知事には一つの党あるいは政党連立(これをレマlemaと呼ぶ)から3人まで候補を立てられる。憲法第271条は、最も得票したレマの中で最も得票した候補が当選する、と定めている。

1. 首都知事候補をめぐる「内輪もめ」

モンテビデオ県には国民の約半数が住む。1989年以来、拡大戦線が勝ち続けてきた県でもある。拡大戦線初の大統領にして、真に自由で公正な普通選挙で2回目の当選を果たしたタバレ・バスケス(Tabaré Vázquez)前大統領は、モンテビデオ県知事として政治的キャリアを積んだことで知られる。国民党とその連

立与党としては、ぜひ決戦投票の余勢を駆って勝利をめざしたいところである。しかし、連立交渉に続き、「カビルド・アビエルト(Cabildo Abierto、開かれた市参事会)」のマニーニ・リオス(Guido Manini Ríos)元軍総司令官が、地方選挙でも不協和音を奏でることとなった。

ラカジェ・ポウを支える連立は国民党、コロラド党、カビルド・アビエルト、独立党、そして前回のモンテビデオ県知事選挙で国民党とコロラド党の統一候補だった企業家のノビックが率いる「人々の党」(Partido de la Gente)で構成されている。国民党は元ウルグアイサッカー連盟会長で、ラカジェ・ポウ政権でスポーツ省副大臣に就任予定のセバスティアン・パウザ(Sebastián Bauzá)を統一候補に擁立しようとした²。ところがパウザは固辞。かわって浮上したのが独立党のジャーナリスト、ソテロ(Gerardo Sotelo)である。また、連立して統一候補を立てる場合、どこの政党名(Lema)を使うかが問題になる。政党名は独立党か人々の党のどちらか、という議論になっていた。人々の党は「独自候補はいないが、一人ではなくそれ以上の候補を立てたほうがよい」という考え方だった³。ここで待ったをかけたのがカビルド・アビエルトだった。「独立党」は選挙ではかばかしい成果を得られなかったのだから、その名で戦うのは望ましくないというのである⁴。さらにマニーニ・リオスは「首都に重要な変化をもたらしたい」と自らの県知事選出馬を表明。彼は以前にも「なぜカビルド・アビエルトが選択肢に入らないのか」と不満を漏らしていた⁵。カビルド・アビエルトから下院議員に選出されたドメネチ(Guillermo Domenech)がラジオで「独立党はモンテビデオで少ししか得票できず、全国でもカビルド・アビエルトの最大得票会派より得票が少ないからソテロは納得のいく候補ではない」と批判するに及んで、ソテロも立候補を辞退⁶。しかしマニーニ・リオス擁立に対しては、独立党党首のミエレス(Pablo Mieres)が擁立など考えてもいないし考えることもない、と反発し、コロラド党は統一候補擁立に失敗した暁にはタルビ(Ernesto Talvi)前大統領候補を擁立すると表明⁷したうえ、1月25日の党大会でマニーニ・リオスを統一候補にすることを圧倒的多数で否決⁸。候補者選びに暗雲がたれこめた。国民党としては、2019年の大統領選挙に出馬したマニーニ・リオスもタルビも、モンテビデオ県知事候補としては望ましくない⁹。拡大戦線に勝てないまでも善戦すれば、2024年の大統領選挙の有力候補に成長してしまうからだ。コロラド党はチェディアク(Jorge Chediak)元最高裁長官の名を挙げたが、カビルド・アビエルトが反対した。マニーニ・リオスとタルビが会談し、両者ともに候補とならないことを表明したのが1月30日¹⁰。数日後にやっと5党が合意して統一候補に立てたのは、国民党系のラウラ・ラッフォ(Laura

Raffo)だった。ラッフォは経営学修士で、エコノミスト、経営者であり、マイクロソフト、マンパワー、エンデバー、PGGライトソン、ESPNなどの多国籍企業で管理職を経験し、2018年から2020年までスペインに本拠を置くサンタンデル銀行の役員を務めた。また、10年近くウルグアイの全国局テレドセの情報番組「テレムンド」で週1回経済コーナーを担当していた。ウルグアイ女性経営者協会の創立メンバーでもある¹¹。代々国民党の家系に育ち、父親は下院議員、上院議員を歴任、ラカジェ・ポウの父親ラカジェ(Luis Alberto Lacalle de Hererra、在任1990-95)大統領のもとで輸送・公共事業大臣を務めた人物である¹²。

政治学者で世論調査会社を主宰するポティネリは、連立のモンテビデオ県知事候補選びを「診断ミス」と痛烈に批判し、候補の票を合算できるのだから、2019年の国政選挙で拡大戦線の票を奪ったカビルド・アビエルトのマニーニ・リオスと、コロラド党、国民党から1人ずつ擁立すべきだったという。また、「継続か変化か」というスローガンも間違いだ、と指摘。県民は拡大戦線の統治に反感を持っていないからだ¹³。たしかに、統一候補では得票合算という制度のメリットが生かせない。しかしマニーニ・リオスにはコロラド党も独立党も強烈な拒否反応を示していたので、彼を連立内の複数候補の1人に選べば、ラカジェ・ポウの連立政権は3月1日の発足前に崩壊していただろう。ましてマニーニ・リオスは、刑法違反で訴追可能性があり¹⁴、議員の不逮捕特権はく奪が議論されている人物である。コロラド党からタルビを擁立することも(次の大統領選挙の)敵に塩を送ることになりかねない。ラカジェ・ポウにしてみれば、統一候補を立てるしか選択肢はなかっただろう。

優勢間違いなしとされた拡大戦線の側も候補者選定で混乱し、各党・派閥の協力関係が微妙に変化した。前年の大統領選挙の党内予備選(6月)で社会党のマルティネス前モンテビデオ知事に敗れた(2位)カロリナ・コッセ(独立系会派La Amplia)は、国政選挙終了直後から精力的に各地の「基盤委員会」を回って「反省会」で草の根に浸透を図り、共産党とも接近。大統領選の決選投票で惜敗したマルティネスも選挙戦後の休暇から戻り、各種式典に姿を現すとともに県幹部らと会談、出馬に意欲を見せていたが、所属する社会党内での支持が少ないから立候補しない、と12月28日にツイート。これを受けて、無派閥のアルバロ・ビジャル(Álvaro Villar)マシエル病院長に出馬を求める署名がchange.orgを通じて3千名近く集められ、12月30日に彼が出馬を表明。ビジャルは1971年の選挙で拡大戦線のモンテビデオ県知事候補だったウーゴ・ビジャル(Hugo Villar)の息子である¹⁵。しかし「大統領選出馬のため退任した当時50%の支持を得ていたマルティネスの路線をコッセもビジャルも継いでいない(ので

私が継ぐ)」とフェレリ (Pablo Ferreri) 経済省次官やガルシア (Álvaro García) 予算局長が名乗りを上げ¹⁶、さらにマルティネスが再び出馬に意欲を見せたことから、候補者の調整が必要となった。

マルティネスの「迷走」の背景には社会党の危機がある。かつては拡大戦線の中で多数派を占めていた社会党は、2019年国政選挙で過去35年のうち最低の得票に落ち込み、上院が1議席(拡大戦線全体では30議席中13)、下院は4議席(うちラバジェハ県ではMPPと共闘して議席獲得)しか得られなかった(拡大戦線全体では99議席中42)。このことで、元拡大戦線代表のハビエル (Monica Xabier) などからシビラ (Gonzaro Civila) 書記局長の路線を批判する声が上がった。ハビエルらは改革派と呼ばれている。社会党の党中央委員会選挙で選ばれる51人の委員と19人の各県代表、党青年部の書記局長で構成されており、地方には改革派が多い。執行部は共産党と共闘しなければ未来がないと考えてはやばやとコッセ支持を決定してしまったが、改革派はこの決定から締め出されたと考え、県民の支持が高かったマルティネスを候補に推して執行部に反発したのである¹⁷。

拡大戦線のモンテビデオ県知事候補になるためには、半分は各党派代表、残り半分は基盤委員会の代表で構成される党の県総会で5分の4の賛成を得なければならない。共産党は、基盤委員会の一部は統一候補を望んでいたが¹⁸、結局、党の県総会ではコッセ、マルティネス、ビジャルの三人を候補に立てることを決定した¹⁹。

大統領候補の党内選以後の6か月で拡大戦線内の各党派の協力関係は変化した。ムヒカ率いる最大党派のMPPは県知事選では独自候補を立てない。2019年の党内戦ではコッセを支持したが、副大統領候補選定についてマルティネスにフリーハンドを与え、マルティネスがコッセを選ばなかったことからコッセと決裂²⁰、ビジャルを支持。党内選挙でベルガラ (Mario Bergara、4位) 元中央銀行総裁を支持していたグループの大半や、マルティネスを支持していた中道左派の進歩同盟 (Alianza Progresista) もビジャルを支持。一方コッセは、党内選で共産党のアンドラーデ (Óscar Andrade、3位) を支持した共産党やマルクス主義のPVP (Partido por la Victoria del Pueblo、人民の勝利のための党) 等の支持と、マルティネスを支持していた社会党やフェミニストのモレイラ (Constanza Moreira) が率いる「大きい家 (Casa Grande)」等の支持を得た。アストリ (Danilo Astori) 元副大統領の「ウルグアイ会議 (Asamblea Uruguay)」やキリスト教民主党、「新しい空間 (Nuevo Espacio)」などの穏健派は、マルティネス支持で変わっていない²¹。なお、拡大戦線は首都の県知事選挙は3人の候補が統一プログラムを掲げて戦う²²。つまり、誰を選んでも政策は同じである。

2. 新型コロナウイルス危機と選挙

各党の候補もようやく出そろった頃に起ったのが新型コロナウイルスによるパンデミックである。それまで感染者がいなかったウルグアイだが、ラカジェ・ポウ政権発足直後の2020年3月13日、4名の感染者が確認されたため、大統領は同日、国家衛生緊急事態を宣言。文化、スポーツなどの公式イベントの開催を中止し、14日には教育機関の休校、17日にはショッピングモールの一時営業停止とともにアルゼンチンとの国境を封鎖。23日にはブラジルとの国境も封鎖する大統領令を発令するなどの措置をとった²³。3月17日には、選挙裁判所が各党の代表と会い、この状況下では選挙を行うことが「困難である」と伝えた。しかし選挙裁判所は延期を示唆することにも決定することにも権限がない²⁴。憲法は第77条9項で、地方選挙を5月第2日曜に行うと定めているが、日にちを動かすことについての規定はない。国民党と拡大戦線は、議会の権限を定めた憲法第85条の20項にある「最高裁が行う他、議会は憲法を解釈できる」という規定を使って憲法解釈で期日延期を行う案に賛成していたが、コロラド党がそれは違憲だし、悪しき先例になる、と反対した。憲法を改正するには国民投票が必要だというのである。現職は7月には退任しなければならない²⁵。結局、議会は選挙裁判所に権限を与え、選挙裁判所の特別多数で期日を決定する法律を作った²⁶。4月17日、選挙裁判所は選挙を9月27日に行うと決定。10月4日はブラジルの地方選挙なので、二重国籍のウルグアイ人の便宜のため投票日が重ならないようにした²⁷。

3. 選挙タイミングの重要性

選挙のタイミングが選挙結果に大きな影響を与えることは言うまでもない。ウルグアイでは新大統領の就任式は3月1日。憲法の規定通りであればその一か月半(5月第2日曜)で統一地方選挙を行うので、国民と新大統領はいわゆる「蜜月期間」のさなかにある。しかし9月27日では就任から6か月以上経っているので、国民の目も厳しくなっている頃だ。

しかし、選挙延期は国民党にむしろ有利に働いた。その1つの要因が新型コロナウイルス対策ではないだろうか。ラカジェ・ポウ大統領は「責任ある自由」を説き、「ロックダウンの代わりに産業を一時停止させ、学校や国境を閉鎖させつつ、屋内にとどまり、ソーシャル・ディスタンス(対人距離の確保)を厳守するよう人々に呼び掛けた」(AFP²⁸)。早めの対策と、首都以外は人口密度が低いことが功を奏し、中南米諸国政府による新型コロナウイルス対応に関する世論調査でラカジェ・ポウの政府は77.8%という南米最高の評価を国民から得ることができた²⁹。もう一つは次で述べるライバルの引退である。

選挙の延期で負の影響を被ったのが、コロラド党と

拡大戦線のマルティネス候補だ(マルティネスについては後述)。コロラド党のニューリーダー、タルビはラカジェ・ポウ政権で外務大臣に就任したが、ベネズエラ問題をめぐりラカジェ・ポウと対立した。ベネズエラに強硬姿勢を取り、自分の大統領就任式にマドゥロを呼ばなかったラカジェ・ポウに対し、タルビは大統領選挙期間こそ「ベネズエラは独裁」と批判していたものの、外務大臣就任後は「独裁」という言葉を使わなくなった。6月6日付オブセルバドール紙のインタビューでその理由を問われたタルビは「私は自分や自分の属する政治グループではなく市民全体の代表だから、自分の立場にふさわしい、敬意ある言葉遣いをする」とした³⁰。6月9日には大統領に呼び出されタルビは二人の間に見解の違いはない、とマスメディアには強調した。しかしタルビがベネズエラにはあくまで反体制派との対話を通じた和解を呼びかけるという立場で、ベネズエラへの働きかけには拡大戦線時代に作られた国際連絡グループ(Grupo de Contacto Internacional, GCI)も使っているのに対し、ラカジェ・ポウは公の場でマドゥロは独裁者だと公言し、コロラド党の重鎮サンギネッティ元大統領もベネズエラの反対派指導者グアイトとテレビ会議を行うなど、反マドゥロの立場を鮮明にしている³¹。タルビは外相を辞任する決意を固め³²、さらには上院議員も辞職して政界から引退すると発表した³³。

4. カビルド・アビエルト、再び連立を揺るがす

タルビ引退と前後して、またしてもカビルド・アビエルトの行動が与党の連立を揺るがした。まず、国民党のモレイラ(Carlos Moreira)・コロニア県知事候補がインターンの期間延長と引き換えに性交渉をもちかけた事件³⁴を不起訴処分にした2人の検事について調査を命じたディアス(Jorge Diás)検事の更迭を要求³⁵。この検事は2012年に全政党の賛成で就任以来、たびたび時の政権と対立してきたといわれるが、更迭には上院の5分の3以上の賛成が必要なので連立与党の合計議席18では足りない³⁶。コロラド党や国民党からはカビルド・アビエルトを批判する声が上が³⁷、ラカジェ・ポウ大統領は「国の制度や組織はそこに所属する特定個人への好悪で判断されるべきではない」という考え方を示し、検事更迭は適切ではないとした³⁸。この件だけでも無用な波風を連立与党内で立てているのに、さらにマニーニ・リオスは、失効法解釈法(法令 18831号)の無効化を主張したのである³⁹。失効法解釈法は、2011年2月に米州人権裁判所が「失効法は米州人権条約に違反する」という判決を出した⁴⁰ことを受けて、同年11月に拡大戦線のみ賛成(ただし上院で1人棄権)で成立したもので、失効法発効からこの法律が発効するまでの期間を時効計算に参入しない(第2条)、失効法の対象となる犯罪(軍・警察が政治的動機に基づいて

行ったもの、もしくは命令に従って行ったもの)を人道に対する罪とする(第3条)、としている。失効法解釈法の無効化提案にはさっそく独立党の下院議員が「米州人権裁判所の判決を無視するもので、したがって法治国家を踏みにじるものだ」と反発。「カビルド・アビエルトは、法治国家の職務を遂行した結果(の裁判)に抵抗するノスタルジックな退役軍人の集団的要求を体现している」と批判した⁴¹。失効法解釈法の成立当時下院議員だった大統領は、そのときは「この法律は国民投票にかけるべきだ」と息巻いていたようだが⁴²、「(2019年11月の)5政党間合意に(失効法解釈法の問題は)入っていない⁴³」と切り捨てた。また、米州人権委員会もマニーニ・リオスのプランに懸念を表明⁴⁴。しかし一連の騒動でマニーニ・リオスとカビルド・アビエルトが注目を集めたことは間違いなく、「政治課題の操り師」との異名をとった⁴⁵。悪名は無名に勝る、を実践しているというわけだ。

5. カビルド・アビエルトの内輪もめ

カビルド・アビエルトは党内でも不協和音を奏でている。まず首都では市長候補の選出方法に異議あり、との声が上がった。前年10月の選挙でカビルド・アビエルトは首都では全国での得票約11%を下回る8.25%しか得票していない。にもかかわらず党は8つの地区で各1人候補を立てることにし、党のモンテビデオ県委員会委員長のラダエリ(Eduardo Radaeli⁴⁶)が候補を選定した。候補は25名のリストのなかから県委員会が約20分の面接を経て選定されたが、党内のある派閥は「ラダエリが面接前に候補を決めていた」と憤る。このグループは10月の選挙ではパルプ工場建設反対で知られるルスト(Eduardo Lust)を下院議員にしようとして運動したグループだが、最近では指導部と距離を置いていた⁴⁷。深刻なのはサルトでの造反だ。サルト県選出のカビルド・アビエルトの下院議員(Rodorigo Albernaz)は、「国民党のレマの下で選挙を戦う」という、2月に行われた党の県大会での決定を拒絶したばかりか、コロラド党の県知事候補への支持をおおやけにしたのである⁴⁸。

6. 荒れ模様の選挙戦

1973年のクーデター以前はともかく、選挙期間中に運動員や候補への暴力が少数ではあるが報道されたのは、ウルグアイではめずらしいのではないだろうか。前回の選挙でコロラド党に勝利した拡大戦線の知事が再選できるか、接戦のサルト県で8月12日、選挙ポスターを掲げようとしていた拡大戦線の運動員3人が、別のグループにポスターを踏みにじられるなどの嫌がらせを受けて口論になり、いったん引き下がった相手方がナイフをもって戻ってきて運動員を刺したというのである。一人は胸を刺され肺に達する重傷を負っ

た⁴⁹。

この襲撃事件を拡大戦線はもとより、コロラド党の県知事候補や国民党のサルト県委員会も非難⁵⁰。その場で逮捕された容疑者は2005年に傷害罪で裁かれ(取監されず)、2013年には家庭内暴力で裁かれて取監され、3年前にラジオインタビューで「リマ・サルト県知事はナチと同じ」とのたまった人物であるが、検事は過去の事件とは切り離して考えて「事件に政治的意図なし」と判断した⁵¹。拡大戦線の執行部では、パイサンドゥ県で拡大戦線の元下院議員夫妻が歩いていたところ若者グループが執拗に殴り掛かってきたこと、首都のCH市の市長候補者のポスターが狼藉されたこと、カネロネスで壁に政治的主張を描いていた拡大戦線の運動員が、車でやってきて国民党の県知事候補の一人の名前を繰り返し叫ぶグループに騒ぎ立てられ、車の横には空の葉きょう3個が落ちていたことが報告されたという⁵²。マルドナルド県の高級リゾート、プンタ・デル・エステでは、9月5日に拡大戦線とカビルド・アビエルトの運動員の間で衝突事件が起きて2人が負傷している。現場に居合わせたカビルド・アビエルトの県知事候補カル(Sebastián Cal)によれば、さまざまな党の人が友好的に過ごしているところへ選挙キャンペーンの車列が通りがかり、その最後尾の軽トラックから降りてきた人物がカビルド・アビエルトの運動員を罵ったため口頭で応戦すると、トラックから降りてきて殴り掛かったのだという。カルは「犯人が拡大戦線の運動員であるとはいえない」と言っている⁵³。9月12日には、アルティガス大通りに面したラッフォの選挙事務所が、監視カメラのケーブルを切られたうえで石を投げ込まれ、窓ガラスを割られるという事件も起きている⁵⁴。

フェイクニュースも飛び交った。8月9日のテレビ番組で女性医師が「ビジャルが院長だった時代にセクシャルハラスメント被害者がいる」と告発。ビジャルが訴えを放置したというのだ(ビジャルは被害者が誰も傷つけない、として文書による告発を望まなかった、と疑惑を否定)。たちまちのうちに#MeLoDijeronEnLaFMedというハッシュタグができて、女性たちが続々と性被害の書き込みをした⁵⁵。ビジャルを非難する偽サイトやマルティネスを推す偽サイトも登場した⁵⁶。

選挙まであと2週間というところで、大統領が激戦となっている内陸のロチャ県、マルドナルド県、サルト県を公式訪問したことや、セロ・ラルゴの国民党県知事候補が大統領公邸で大統領と会談しているシーンをスポット広告に使っていることも、問題になった。憲法第77条第5項は、大統領と選挙裁判所の判事は「政治的クラブや委員会の構成員になってはならない」「いかなる形でも選挙の性質をもつ政治宣伝に干渉してはならない」と定めているからだ。これには拡大戦線だ

けでなく、ロチャで国民党のレマのもとで立候補しているカビルド・アビエルトの候補やコロラド党からも批判の声があがった⁵⁷。拡大戦線は(憲法第30条で規定された請願権を使って)ラカジェ・ポウ大統領に、選挙戦で大統領の画像を使わないように申し入れた⁵⁸。

選挙戦終盤では、あの失言大王のムヒカ(José Mujica)元大統領が、ラッフォが貧困地区を「忘れられたモンテビデオ」と名付けていることを皮肉って、ラッフォが貧困地区でキャンペーンをするときの服装を揶揄したことも問題になった⁵⁹。国民党はムヒカを「言葉のテロだ」と批判⁶⁰し、アルヒモン(Beatriz Argimón)副大統領も「マチスモ」のあらわれ、と批判⁶¹。この件はムヒカが謝罪し、それをラッフォが受け入れて決着した⁶²。

7. マルティネスの無念

2019年11月の大統領選挙決選投票では僅差で敗れたものの、マルティネスは2020年初めの段階ではトップの人気を誇っていた。この傾向は候補者擁立をめぐるごたごたを経てもかわらず、6月までは彼がラッフォはもとより拡大戦線の他の二人をリードしていた。しかし7月下旬のOpción社の世論調査で、コッセはマルティネスとほぼ同格になった⁶³。コッセは8月17日に公表されたCifra社の調査ではコッセ20%、マルティネス17%、ビジャル14%と逆転した。同時にラッフォ支持が32%から38%に上昇、拡大戦線は53%から51%へ微減⁶⁴。Cifra社は「コッセが最も鋭く政府を批判しているのに対し、あとの2人はより穏健で中道に近い」と指摘している⁶⁵。コッセは支持を伸ばし、9月23日に公表された最後の世論調査ではEquipos Consultores社でコッセ23%、マルティネス12%。ビジャル11%。ラッフォは拡大戦線と14ポイント差。Radar社の調査ではコッセ22%、ビジャル16%、マルティネス12%でマルティネスは3位に沈んでしまっている。支持する会派と支持する候補が必ずしも一致しないことも票読みを難しくした。7月の調査では、コッセを支持すると答えた人の20%が、(ビジャルを支持する)MPPに投票するだろうと答えている。一方、マルティネスに投票すると答えた人の15%はコッセ支持を決めた社会党に投票するだろう、と答えている。マルティネスを支持すると答えた53%と、ビジャル支持の56%はどの会派に投票するかわからない、と答えているところも気になる所だ⁶⁶。一方、ラッフォは6ポイント上昇して40%、この2か月間で最も支持を伸ばした候補となった⁶⁷。Cifra社の調査でもコッセ24%、ビジャル16%、マルティネス13%。拡大戦線に投票すると答えた人は3ポイント上昇して53%、しかしラッフォも39%を維持していた⁶⁸。

8. 選挙結果

首都は拡大戦線456,695票(52.06%)、連立与党側が351,207票(40.03%)で予想通り拡大戦線が勝利。ラッフォは善戦したが、前回の知事選では統一候補擁立に不参加だった独立党とPERI(環境主義を掲げる小政党)の得票を足した票と拡大戦線の得票との差をみると、前回と比べて2,399票しか差が縮まっていない、とオブセルバドール紙は指摘する⁶⁹。拡大戦線内ではコッセ184,364票、ビジャル162,364票、マルティネス105,050票⁷⁰。マルティネスはビジャルにも追い越され、挽回できなかった。オブセルバドール紙はコッセが世論調査でトップに立った時に、3人の中で最も厳しく与党を批判しているのがコッセで、より穏健な有権者は拡大戦線を離れたのではないかと推測している⁷¹が、これはラッフォが終盤に支持を拡大したことで裏付けられるだろう。また同紙は、マルティネスは彼を支持してくれる大きなグループがなかったうえ、公衆衛生上の緊急事態になってからは、コッセが上院議員として活動し、ビジャルは病院に戻ったのに対し、マルティネスは炊き出しを回ったりしたがメディアへの露出がなかったことも指摘している⁷²。

首都以外の注目県では、首都に次ぐ人口を抱え、首都に隣接するカネロネス県で拡大戦線はオルシ(Yamandú Orsi、MPP)を再選させた(拡大戦線180,200票に対し国民党90,098票、コロラド党14,896票)。サルトでも漁夫の利を得てリマ(Andrés Lima)が再選。しかしリオ・ネグロでは拡大戦線16,280票、国民党18,057票で敗北、ロチャでも拡大戦線22,873票、国民党24,169票と敗北を喫した。コロラド党はリベラを死守した。県知事選の星取表は国民党15、拡大戦線3、コロラド党1という結果⁷³で、社会学者のカンザニ(Agustín Canzani)は、エレラ⁷⁴派の大勝利だと評した⁷⁵。

カビルド・アビエルトはどうか。県知事選挙では独自候補を立てた県と国民党のレマのもとで戦った県があるが、どちらのケースでも得票は4桁止まりで、3桁のところもある。しかし、人口が多いカネロネスで8,937票獲得しているのは措くとしても、タクアレンボで6,756票獲得し、コロラド党の5,235票を上回っていることは注目される(国民党39,707票、拡大戦線12,024票)。ただし国政選挙からは半減しているという。また、ロチャでは国民党のレマのもとで戦った候補が4,137票獲得しており、国民党の勝利に貢献している。逆に同じく国民党のレマのもとで戦ったサルトでは落ち込みが激しいことが指摘されており、わずか895票しかとれていない⁷⁶。有権者は2019年10月にカビルド・アビエルトになにを期待し、約1年後に何を見限ったのか。今後解明すべき課題である。

おわりに

一部の人はすでに2024年の大統領選挙に目を向けている。拡大戦線ではオルシが有望だ。国民党と比べて拡大戦線は世代交代がうまくいっていなかった観があるが、2019年の党内予備選あたりから、(比較的)若手が登場するようになった。コッセも知事として成果を出せば有力候補だ。しかし懸念材料もある。1990年代は社会党等の穏健な中道左派が拡大戦線の主流だったが、次第に、より左派的な党派が主流となっている。共産党やMPPである。2019年大統領選挙のマルティネスは第一回投票で40%の得票だった。また、今回のマルティネスの失速がラッフォの追い上げとパラレルであることからわかるように、中道左派をとりこまなければ拡大戦線は非拡大戦線の政党連合に大統領選で負けてしまう。

国民党は大勝利だが、再選された知事には問題がある人物もいる。コロニアのモレイラもそうだが、アルティガスのカラム(Pablo Caram)も、親族を県的要職に着けたこと等を問題視されている⁷⁷。

コロラド党の凋落には驚かされる。かつてのコロラド党の本流、バッジェ主義が得ていた票は拡大戦線に逃げてしまい、かつて大統領候補だったボルダベリー(Pedro Bordaberry)も期待の星タルビも政界を去った。ボルダベリーは政界復帰しそうな気配もあるが、クーデターの元凶ともいえる人物の息子なので、幅広い支持は望めまい。イデオロギースケールのより右側には、すでにカビルド・アビエルトがいる。

そのカビルド・アビエルトは票を減らしたとはいえ、国政ではキャスティングボートを握る存在であり、いろいろ騒動を起こして連立を揺さぶる存在である。9月30日には上院で、マニーニ・リオスの議員不逮捕特権剥奪に拡大戦線だけではなくシウダダノス(コロラド党旧タルビ派)も賛成。可決は特別多数の賛成(21票)が必要なので特権剥奪には至らなかったが、党首は(おそらく)今日も元気に歴史修正主義の普及に邁進している模様である⁷⁸。

地方選の次の政治的焦点は、連立与党の賛成で成立した「緊急法」をめぐる攻防だ。労組中央センターPIT-CNTは緊急法廃止のための国民投票を求めるといふ⁷⁹。それに賛成するか否かについて、拡大戦線の中でも意見が分かれている⁸⁰。コッセのように現政権と対決する姿勢をとったほうがよいのか、それとも、是々非々の態度で行くべきなのか。コアな支持者を増やすべきなのか、浮動票をもとりこんで、もう一度中道を取り込んでいくべきなのか。拡大戦線の悩みは尽きない。

1 大統領は連続再選禁止。二度大統領になったのはバッジェ・イ・オルド・ニェスとフリオ・マリア・サンギネッティだが、前者の時代は女性に参政権がなく、後者は軍部との交渉

- で民主主義へ移行する時期の選挙で、立候補を禁じられた有力政治家がいたので、いずれも自由で公正な選挙とはみなせない。
- 2 23/12/2019, *El Observador*
- 3 16/01/2020, *El Observador*
- 4 21/01/2020, *El Observador*
- 5 23/01/2020, *El Observador*
- 6 24/01/2020, *El Observador*
- 7 24/01/2020, *El Observador*
- 8 25/01/2020, *El Observador*
- 9 25/01/2020, *El Observador*
- 10 30/12/2019, *El Observador*
- 11 ラッフォ候補のウェブサイトより。
<https://www.lauraraffo.uy/laura-raffo/> 2020年10月2日最終閲覧。
- 12 10/01/2020, *El Observador*
- 13 06/02/2020, *El Observador*
- 14 軍政期に行った28件の殺人で有罪判決を受けている元軍人のガバツソ (José Nino Gavazzo) が、軍人として守らねばならない名誉を汚したかどうかを判断する軍事法廷 (Tribunal Militar de Honor) で、2018年に告白した殺人・死体遺棄について、司法府への報告を怠ったという刑法第177条違反。刑法第177条は、公務員はその公務上知りえた犯罪について告発を怠った場合、3～18か月の懲役に処せられると定めている。
- 15 30/12/2019, *El Observador*
- 16 10/01/2020, *El Observador*
- 17 10/01/2020, *El Observador*, 12/01/2020, *El Observador*
- 18 22/01/2020, *El Observador*
- 19 30/01/2020, *El Observador*
- 20 20/01/2020, *El Observador*
- 21 20/01/2020, *El Observador*
- 22 17/07/2020, *El Observador*
- 23 山本シルビア「ウルグアイで初の新型コロナ感染を確認、通貨安進む」JETROビジネス短信2020年3月17日
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/03/9955de542f20aac7.html> 2020年10月5日最終閲覧、紀井寿雄「新型コロナ対策で独自路線」JETROビジネス短信2020年4月13日、
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/04/c246987708e78a03.html> 2020年10月5日最終閲覧、外務省定期報告「ウルグアイ政治情勢(定期報告 内政・外交)2020年3月」
https://latin-america.jp/latin_data/download-info/ ウルグアイ政治情勢(2020年3月)
- 24 17/03/2020, *El Observador*
- 25 24/03/2020, *El Observador*
- 26 30/03/2020, *El Observador*
- 27 14/03/2020, *El Observador*, 17/04/2020, *El Observador*
- 28 7月8日付AFP「ウルグアイ、ロックダウンなしでコロナを乗り切る 注目すべき成功例」
<https://www.afpbb.com/articles/-/3292293> 2020年10月8日最終閲覧。
- 29 2020年7月4日付ロイター「ウルグアイのコロナ対策に高評価、最低はブラジル＝中南米調査」
<https://jp.reuters.com/article/health-coronavirus-latam-poll-idJPKBN24428K> 2020年10月8日最終閲覧。
- 30 06/06/2020, *El Observador*
- 31 26/06/2020, *El Observador* タルビはアルゼンチン大使人事を巡ってもラカジェ・ポウと対立した(専門性重視の観点からラカジェ・ポウの腹心を任命しなかった)。
- 12/06/2020 *El Observador*
- 32 11/06/2020, *El Observador*, 12/06/2020, *El Observador*
- 33 26/07/2020, *El Observador*
- 34 モレイラが性交渉を持ち掛けている2つの音声が出たことで発覚した。18/10/2019, *El Observador*。発覚の2日後、モレイラは「選挙結果に影響を与えたくない」として離党。19/10/2019, *El Observador*。しかし2020年2月4日、検察が不起訴を決めた直後にコロニア県国民党大会はモレイラの擁立を決めた。04/02/2020, *El Observador*
- 35 20/07/2020, *El Observador*
- 36 22/07/2020, *El Observador*
- 37 *Ibid.*,
- 38 03/08/2020, *El Observador*
- 39 31/07/2020, *El Observador*
- 40 Corte Interamericana de Derecho Humano. Caso Gelman Vs. Uruguay. Fondo y Reparaciones. Sentencia de 24 de febrero de 2011. Serie C No. 221.
https://www.corteidh.or.cr/docs/casos/articulos/seriec_221_esp1.pdf (2020年10月16日最終閲覧)
- 41 01/08/2020, *El Observador*
- 42 El Portal La Red 21, 04/21/2011
- 43 04/08/2020, *El Observador*
- 44 05/08/2020, *El Observador*
- 45 07/08/2020, *El Observador*
- 46 チリ秘密警察のエウヘニオ・ベリオス (Eugenio Berríos) がピノチェト裁判で証言することを阻止しようとチリ秘密警察と共同してベリオスをウルグアイに移送、監禁、のち殺害した3人のウルグアイ軍人の一人がラグエリである。彼は2006年にチリに引き渡されて最高裁で有罪判決を受けたのち、2016年に仮釈放されてウルグアイに帰国した。
- 47 02/08/2020, *El Observador*
- 48 25/08/2020, *El Observador*
- 49 12/08/2020, *El Observador*
- 50 13/08/2020, *El Observador*
- 51 15/08/2020, *El Observador*, 17/08/2020, *El Observador*
- 52 15/08/2020, *El Observador*
- 53 07/09/2020, *El Observador*
- 54 13/09/2020, *El Observador*
- 55 17/08/2020, *El Observador*
- 56 21/08/2020, *El Observador*,
22/08/2020, *El Observador*
- 57 15/09/2020, *El Observador*
- 58 21/09/2020, *El Observador*
- 59 19/09/2020, *El Observador*
- 60 21/09/2020, *El Observador*
- 61 22/09/2020, *El Observador*
- 62 27/09/2020, *El Observador*
- 63 21/07/2020, *El Observador*
- 64 19/08/2020, *El Observador*
- 65 17/08/2020, *El Observador*
- 66 25/08/2020, *El Observador*
- 67 23/09/2020, *El Observador*
- 68 24/09/2020, *El Observador*
- 69 10/10/2020, *El Observador*
- 70 Corte Electoral,
<https://eleccionesdepartamentales2020.corteelectoral.gub.uy/> 2020年10月16日最終閲覧。
- 71 17/08/2020, *El Observador*
- 72 28/09/2020, *El Observador*

- 73 <https://eleccionesdepartamentales2020.corteelectoral.gub.uy/#> 2020年10月16日最終閲覧。
- 74 ラカジェ・ポウの曾祖父の苗字で国民党保守本流ともいべき派閥
- 75 03/10/2020, *El Observador*
- 76 <https://eleccionesdepartamentales2020.corteelectoral.gub.uy/#> 2020年10月16日最終閲覧。30/09/2020, *El Observador*
- 77 28/09/2020, *El Observador*
- 78 01/10/2020, *El Observador*
- 79 06/10/2020, *El Observador*, ウルグアイ憲法第79条は、税

法以外の法律は成立から1年以内に有権者の25%の署名が集められればその廃止を国民投票にかけることを要求できる、と定めている。

80 16/10/2020, *El Observador*

参考ウェブサイト

文中で参照したエル・オブセルバドール紙は以下のサイトで閲覧した。

エル・オブセルバドール(ウルグアイ)電子版

<https://www.elobservador.com.uy/>